

# 窓ガラスが綺麗です

# 成長・貢献・感謝

教室を巡っていると、やたら教室内が見えて、キラキラ光っている窓ガラスを発見しました。汚れや曇りがなく、中が良く見えるクリアな窓ガラスは、2年1組さんの窓ガラスです。

清掃時間に覗いてみると、窓ガラス担当のK・KさんとS・Tさんがていねいにガラス拭きをしていました。彼らは小さく丸めた新聞紙でひたすら磨いていました。これだけでヒカヒカのガラスが出現します。

何故、新聞紙で磨くとガラスが綺麗になるのか？その理由は、新聞紙のインクにあります。

新聞紙のインクは「油分」ですが、これが水分を含むと界面活性剤、つまり洗剤と同じ働きをします。汚れを拭き取って、インクの油分でコーティングする。また、新聞紙の繊維は細かいので、ガラスを傷つける心配ありません。汚れたら、こまめに替えて使用します。力を入れすぎると割れてしまうので、円を描くように、クルクル回しながら磨いてください。



羽地中学校  
学校だより128号  
R1. 11. 8

## 平家物語

## 場面や状況、登場人物の考えを捉える

窓ガラスが綺麗だと、すっきりして気持ちがいいもの。

当たり前の事を毎日、続ける。これが「貢献」です。二人の貢献が観られて良かったです。

これからも、きれいな窓ガラスを保って下さい。



祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。おこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

誰でも学校で習い、先生から暗記するようにと言われたことのある有名な「平家物語」の冒頭部分。2年生の国語では、平家物語の「敦盛の最期」を学んでいました。

全員で声に出して読み、ストーリーを漫画でまとめた資料をみて、空いている吹き出し部分に現代語訳を想像して入れていく活動を行いました。

場面や状況を捉えて、登場人物の考えについて自分なりの考えを持つ授業展開でした。

歴史の再発見は、現代の人達の想像力をかき立てられるものだ。別の見方、考え方は常に存在し、歴史を改めて見直して学び直すこともありえる。

小泉八雲の怪談・耳なし芳一を読み、映像と音楽で読み聞かせプレゼンを行ったことがある。無念の死を遂げた平家武士達の霊が当世最高の琵琶の語り手である芳一を夜な夜な墓地に招き語らせ、ついには両耳をもぎ取ってしまうという異常な物語である。

久しぶりに資料を探したが、今はそのプレゼン資料は見つからない。あれだけ時間をかけて作ったのに。まさに、諸行無常である。

空の吹き出しに入れるセリフを考える

